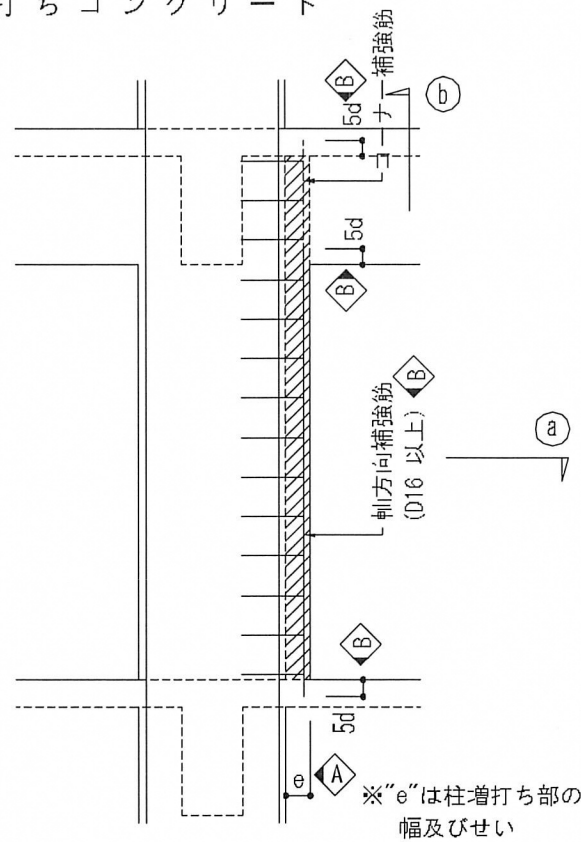
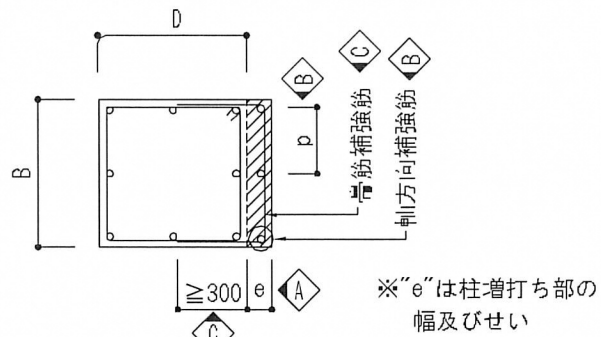


増打ち要領

1) 柱増打ちコンクリート



(a)-(a) 断面図

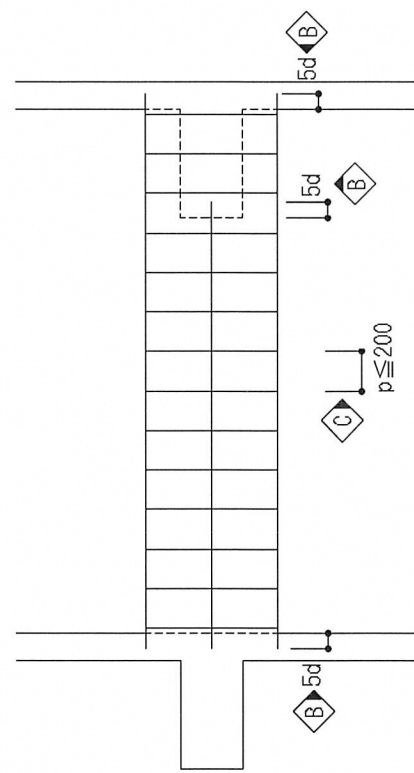


軸方向補強筋リスト

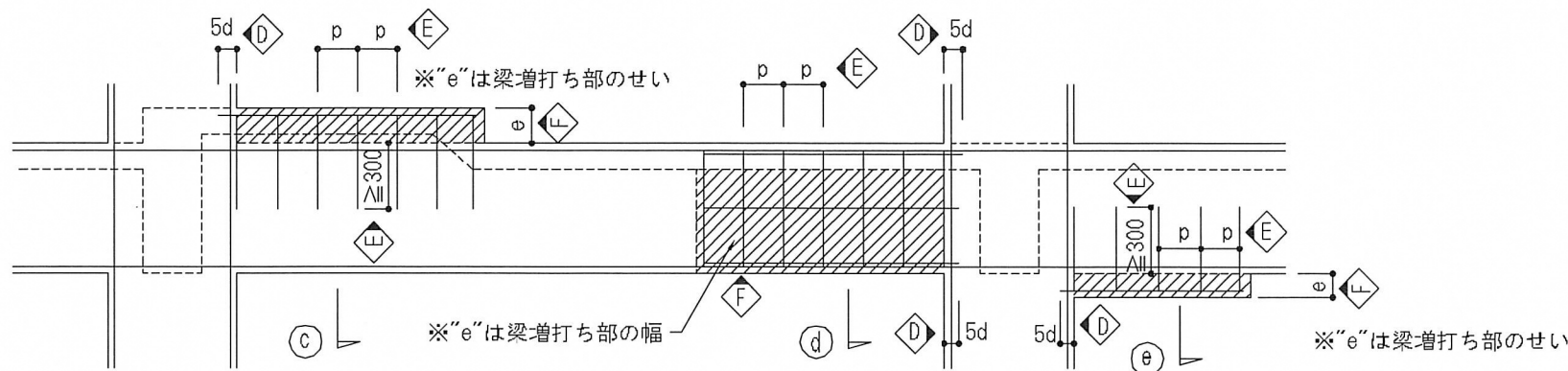
B (mm)	e (mm)	50 < e ≤ 125
300 < B, D ≤ 500		3 - D16
500 < B, D ≤ 700		4 - D16
700 < B, D ≤ 900		5 - D16
900 < B, D ≤ 1,100		6 - D16
1,100 < B, D ≤ 1,300		7 - D16

* e ≤ 50mm の場合は補強不要とする。

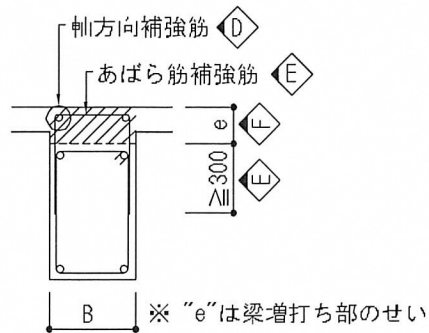
(b)-(b) 断面図



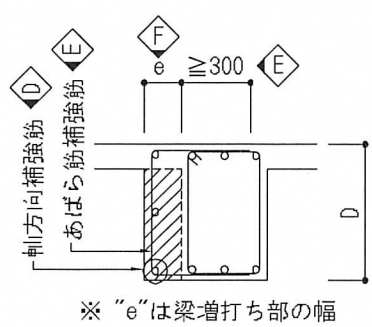
2) 梁増打ちコンクリート



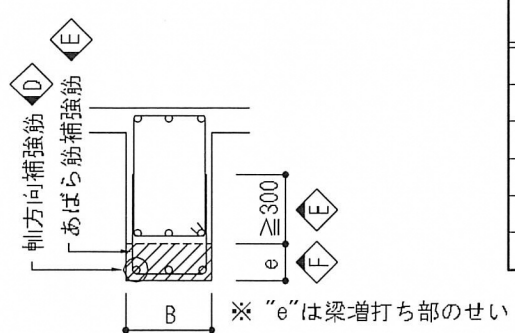
(c)-(c) 断面図



(d)-(d) 断面図



(e)-(e) 断面図



軸方向補強筋リスト

B, D (mm)	e (mm)	50 < e ≤ 200
B, D ≤ 300		2 - D16
300 < B, D ≤ 500		3 - D16
500 < B, D ≤ 700		4 - D16
700 < B, D ≤ 900		5 - D16
900 < B, D ≤ 1,100		6 - D16
1,100 < B, D ≤ 1,300		7 - D16

* e ≤ 50mm の場合は補強不要とする。

- ◇ A 柱の増打ちコンクリートの厚さ e は、原則として 125mm 以下とする。
- ◇ B 軸方向補強筋は増打ちコンクリート断面積の 0.8% 以上かつ D16 以上の鉄筋を使用し、間隔は 200mm 以下とする。定着は $5d$ とする。補強筋を表にて示す。
- ◇ C 帯筋補強筋は実断面の帯筋と同径とし、間隔 p は 200mm 以下とする。また、実断面に 300mm 以上定着する。
- ◇ D 軸方向補強筋は増打ちコンクリート断面積の 0.4% 以上、かつ D16 以上の鉄筋を使用し、間隔は 200mm 以下とする。定着は $5d$ とする。補強筋を表にて示す。
- ◇ E あばら筋補強筋は D10 以上の鉄筋を使用し、間隔はあばら筋と同間隔とする。また、実断面への定着は 300mm 以上とする。
- ◇ F 梁の増打ちコンクリートの厚さ e は 200mm 以下とする。

附記事項

- ・柱の増打ちコンクリートの厚さ e が 125mm を超える場合は、正規の柱断面として計算に取り入れるものとする。
- ・梁の増打ちコンクリートの厚さ e が梁全長にわたり 200mm を超える場合はこれを正規の断面と考え、計算に取り入れるものとする。
- ・ $5d$ 以上の定着をとる場合の補強筋については、構造設計により決定する。